

## 交運労協 第23回交通運輸政策研究集会

交運労協は、23日(火)～24日(水)熱海金城館にて、『第23回交通運輸政策研究集会』を開催しました。運輸労連より11人(神奈川県連2人)が出席し、各産別や県交運労協からも多くの方が出席していました。

住野議長より主催者挨拶がされ、高松事務局長より集会に向けた問題提起がされました。



住野議長



高松事務局長



基調講演・第1講座として、戸崎 肇(首都大学東京特任教授)氏より『交通運輸産業を取り巻く課題と展望』というテーマで講演されました。戸崎氏は「現在、人手不足をチャンスに転換し、様々な時代の変化から長期的には人余りの時代が来る。現在の付加価値を高める事」と述べています。

●急激に進化するAIやライドシェアをはじめとする交通運輸システムの破壊に歯止めをかけなければいけない。ハイタクだけの問題ではなくバス・トラックにも関係してくる問題で、『安全性が担保されていない』事が重大な問題だと感じました。



第2講座として、谷川 武(順天堂大学教授)氏より『睡眠呼吸障害検査の意義について』というテーマで講演がされました。谷川氏は「SASは長年にかけて進行するもので、眠たいなどの意識はない。フッと意識が無くなる怖い病気で、それは飲酒運転と匹敵する交通事故のリスクがある。」とSASの早期対応が急務としている。しかし「ドライバーは病気の発覚が不安であり検査に行かない。SASは治療をする事で治る病気であることを、労使お互いに知ってほしい。また、本人が知らなくても企業の責任は逃れることはできない。」と述べています。



第3講座として、伊藤 誠(筑波大学大学院教授)氏より『交通運輸産業に関わる自動化の現状と課題』というテーマで講演がされました。

伊藤氏は「人間中心の自動化が最も大切」と述べた。現在の状況において、自動運転システムの実験段階で、システムが状況を正しく認識できない。システムには何らかの形で限界があるが、部分的な自動運転は実用可能である。日本中津々浦々にネットワークを広げるコストが見合うのか?なども問題であり、実用には時間がかかる」と述べています。

本日の講座は全て終了しました。

明日は、4分科会に分かれて討議を行う予定です。

24日(水) 9:00より各部会に分かれてそれぞれの課題や問題提起がされました。各産別や地域からの報告や意見が出され、全体集会にて報告がされました。



第4分科会の様子

#### 第1分科会『第4次産業革命に対する労働組合の対応について』

様々な形で機械化がされている中で、最終的には人の目や人の手、五感に頼る部分は大きい。新しい取り組みもしっかり考えないといけない。

#### 第2分科会『人流における各モードの対応や連隊について』

東北は震災の影響もあり人口減少に歯止めがかからない状態から、地方の公共交通を守る取り組みが急務になっている。

#### 第3分科会『物流における各モードの課題や連携について』

働き方改革での上限規制についてトラックドライバーは除外とはならないまでも、960時間(休日を含まない)では、現状と何ら変わらない。死ぬまで働けというのか！交運として社会へのアピールは重要。

#### 第4分科会『交通運輸産業の人財育成・確保について』

交通運輸の人手不足は深刻、どのように労働者を集めるのか？また、既存の労働者を辞めさせないために、何をすべきか？労働者のニーズは必ずしも賃金だけではない。休日が取れない。家族との時間がない。睡眠が取れない。ワークライフバランスの欠如が人手不足を深刻にしている。

などの討議報告がされました。